



かとう かおり  
加藤 香 さん



NPO 法人 bond place 理事／  
コワーキングスペース aeru 主宰  
(甲府市)

今回 10 回目となる“地域で輝く女性レポート”は、子どもの貧困支援や女性・若者の起業支援を通して、地域や社会の課題解決に取り組んでいる「NPO 法人 bond place 理事／コワーキングスペース aeru 主宰」の加藤香さんにお話をうかがいました。

加藤さんが現在の活動に至った経緯を教えてください。

**加藤** きっかけは 2011 年の東日本大震災でした。

東京の大学に進学が決まった息子のアパート探しに行った 2011 年 3 月 11 日の震災当日、都内で息子と二人、震災に遭いました。結局、その日は新宿駅近くの百貨店内で多くの帰宅困難者と共に一晩過ごしたのですが、その晩、その百貨店に入りきれなかった屋外の帰宅困難者の姿と、私の傍らで眠る息子の寝顔を見ながらハッと気づきました。『子どもの大学進学が決まり、やっと子育ても終わったと思っていたけど、私はこの子に“生きる術”を何も教えていない…』と。

その当時、ちょうど子どもの貧困が注目され始めていたこと、また、過去にやり残したことを振りかえった時、「子ども」「教育」というキーワードがずっと私の頭にあったので、山梨に戻ってしばらくして、ボランティア講師や大学生が無料で子どもに学習支援するシステムを構築し、それを通じて子どもの貧困支援に取り組み始めました。

いざ無料の学習会を開催してみると、新たな試みということで新聞などにも取り上げてもらい、やがて 4 か所で延べ 100 人ほどが参加する学習会となりました。しかし、『給食費も払っていない子たちに、無料で学習支援をすることは逆差別だ』等のことを言われたり、有料の塾からクレームがあったり、会場として利用した公民館で館内表記が消されるなどの嫌がらせを受けたり…当時は多くの方々に理解されず、クレームなどの対応に追われる苦しい日々でした。

たった 7,8 年前なのにそんな社会状況だったのですね。そこからどうされたのですか。

**加藤** そんな状態でも何とか継続し、学習会に通う子の中で高校に進学する子も出てきたのですが、高校の入学試験に受かって、高校に通う制服が買えないとか授業料が払えないとか…たとえば高校に進学しても子どもの貧困は終わらないという現実を、そこで初めて思い知らされました。

この気づきから『この問題は、この子達の家庭につながっている行政の福祉課や関係機関と繋がらないと解決できない！こ



加藤香さん

の子達の親を支援しないと何も始まらない！』と考え、学習支援は先生達に任せ、私は生活支援の方向に目を向け始めたのです。

生活支援に目を向けたときに最初に思い浮かんだのが「コワーキングスペース（共同型オフィス）の開設」でした。その頃、金銭面や諸事情で学習会の会場確保が段々むずかしくなってきたこともあったので、「コワーキングスペース aeru」(以下、aeru) を開設し、子どもたちの学習のため、社会を良くする活動をする人たちのために門戸を開き、そこからいろいろな人達に利用していただくようになりました。

また、それと同時に aeru に集っていた無料学習会に通う子のお母さんたちの「働き口・働き方の悩み」にも対応するようになりました。山梨には大きな会社が少なく、柔軟に働けるような環境が整っていないということは分かっていたのですが、就職口を広げるほどの力もないので、『それなら“起業”っていう手もあるよね』と、次第に女性の起業支援に力を入れ始めたのがこの頃からです。

介護・子育て・障害を抱えている人の働き方を考えると、時給 800 円の日会社勤めでは、抱えている問題にも金銭的にも非常に厳しい生活となってしまいます。ならば『起業して自分のペースで働き収入を得る』という選択肢が一番近い道だと考えました。そして、物を作るアイデアや技術はあるけど売る場所が無いという声があれば、マルシェを自ら企画するなど、目の前の問題に対して『こうしたら良いんじゃない?』ということ提案する毎日でした。

そうこうしているうちに、気付けば年間 200 人ぐらいの人

が aeru に出入りするようになって、起業する人も徐々に出てくるようになっていました。ちょうどそんな時期に、行政から『女性で活躍している人を紹介してほしい』と問い合わせが来るようになっていたので、“aeru 発”で様々な活躍をしている女性たちの紹介・情報提供をして行き、それをきっかけに行政と連携した女性起業支援が始まりました。

とうとう目指していた行政との連携が始まったのですね！ところで NPO 法人での活動はどのように始まったのですか？

**加藤** NPO 法人 bond place (以下、bond) 代表の小笠原が、まだ bond が任意団体だった頃に aeru に出入りするようになって、団体の今後のことなどいろいろと相談を受けるようになりました。解決策等を話していく中で、共通するビジョンをお互いが描けたので、『それなら bond を NPO にして一緒に活動してみようよ』と。そんな始まりです。

現在の私の活動はほぼ bond として行っています。女性の起業支援と子どもの貧困対策において、bond 事務局として行政との交渉が主です。いや、交渉というよりも事業内容への提案みたいな感じですかね。『私たちが～できますよ』というよりも、相談の中で『それならこういった団体（方法）がありますよ』というような感じで、「bond place」という名の通り「繋ぐ」ことを目的として活動しています。

子どもの貧困でいえば、昨年からは県内全市町村の福祉担当や社協の職員に向けた研修を任されています。最初は貧困を抱える子どもたちへの学習支援から始まりましたが、現在は貧困支援の制度とか施策に関わる担当者向けの研修に携わるところまでたどり着きました。

ちなみに、bond での私の活動はプロボノ（専門的な知識や技術を社会に役立てるためのボランティア活動）。完全なるボランティアです。bond のお仕事でいただいたお金は、bond の若いスタッフに“から揚げ”をご馳走して無くなります（笑）。



始まりを思えば目覚ましい活動飛躍ですね！

**加藤** いやいや、何の実績も無い私に「学識有識者」という肩書きを与えてくれて、大学教授や各種委員の方々の意見と同様に、現場の意見に耳を傾けてくれる行政の担当者の懐が深かったのです。最初は、そのような会議では尻込みする部分もありましたが、せっかく行政の会議に参加できるのだから、会議には休まず参加しよう、そして参加した際には絶対発言しようとして行動してきました。会議に参加して何もしゃべらなかつたら、その場に居ないのと同じですからね。でも、担当者の方はきつと大変だったと思います。私が発言した無理難題な提案を議事録に残さなければならぬのですから（笑）。

現在の活動で問題や課題等あれば聞かせてもえらえますか。

**加藤** 子どもの貧困や女性の活躍支援を進める中で、ようやく金融機関や行政とパートナーシップ関係を築けていますが、その関係だけでは取りこぼす人が出てきてしまいます。その人達へどのようなアプローチをするかが課題でしょうか。そして、やっぱりもっともっと雇用が増えていかないと…

行政は多額の費用を使って I ターン U ターンの促進をやっていますが、それよりも『東京の有名大学に行って、東京の大手企業で働くことが勝ち組』というような親の意識を改革することの方が大切だと思っています。そして、もっともっと地域の雇用と、地方ならではの面白い働き方を創出していかないとダメです。ただ、『山梨には仕事が無い』とか、『地元に残っていたら負け組』だとか、すでに諦めている女性が多いのが現状です。だから、この諦めをなんとかしたいと活動しています。自分たちの力だけじゃ足りないことを承知しているからこそ、より多くの人たちと繋がって協働していかねばならないと感じています。

最後になりましたが、今後についてお聞かせください。

**加藤** 女性の活躍支援も貧困対策も地域づくりの一つです。もし、私達 bond が現在の活動に関われなくなっても、人々の地域活動はずっと続きます。だから、すべての人たちが少しずつ社会に目を向けてもらえるようになり、「関わる楽しさ」に気づいてもらえたら嬉しいなと思います。『それって一部の人の

にしか出来ないよね』とか『～さんだから出来るんだよ』という考えは本当に嫌です。一人ひとりが自分の問題として捉え考えるとともに、楽しみながら社会の課題を解決する。それが 10 人、100 人、1000 人と増えていったらいいなと思います。眉間に皺を寄せて、世間の悪口を言っているも今の若い人たちはついてきません。行政・民間・NPO など、いろんな人

たちが垣根を越えて楽しく関わりを持ちながら、社会の課題に取り組む体制が確立された世の中になれば素晴らしいですね。

この記事を読んだ女性や母親の中で『何か始めたいけど、私には何も出来ない』と思い込んでいる方がいたら…一歩踏み出すきっかけを私達と一緒に探してみませんか。『あなただからこそ出来る何かがある』と、私は強く思います。

NPO 法人 bond place (HP)  
<https://www.bondplace.org/>

コワーキングスペース aeru (Facebook)  
<https://www.facebook.com/coworking.aeru/>